

## 第19回ふじみ衛生組合安全衛生専門委員会会議録（要旨）

- 1 開催日時 平成30年10月16日（火）19時00分～20時30分
- 2 開催場所 クリーンプラザふじみ 3階研修ホール
- 3 委員出欠 出席 11人  
出席委員 藤吉秀昭（委員長、施設部会長）、角田透（副委員長、健康部会長）  
井上博文、岩澤聡子、岩本宏樹、大野憲一、荻原正樹、佐々木善信  
本田理、牧野隆男、増田雅則  
※正副委員長を除き50音順
- 4 出席者 事務局 上野洋樹、宮崎治、岡田賢一郎、星野巖雄  
今村好一、岩崎誠、大堀和彦、篁健二  
エコサービスふじみ株式会社 久保寺高広
- 5 傍聴者 なし
- 6 次第
  - 1 開会
  - 2 報告事項
    - (1) 第18回ふじみ衛生組合安全衛生専門委員会議事録（要旨）
    - (2) 平成30年度ごみ処理実績について
    - (3) 平成30年度環境測定結果について
    - (4) クリーンプラザふじみ施設稼働後5年間の放射能測定実績について
  - 3 協議事項
    - (1) 平成31年度ふじみ衛生組合安全衛生専門委員会スケジュールについて
  - 4 その他
    - (1) 次回日程
    - (2) その他
  - 5 閉会

【資料1】ふじみ衛生組合安全衛生専門委員会委員名簿

【資料2】第18回ふじみ衛生組合安全衛生専門委員会議事録（要旨）

【資料3】平成30年度ごみ処理実績（平成30年4月～平成30年9月）

【資料4】平成30年度環境測定結果（平成30年4月～平成30年9月）

【資料5】クリーンプラザふじみ施設稼働後5年間の放射能測定実績  
（平成25年4月～平成30年3月）

【資料6】平成31年度ふじみ衛生組合安全衛生専門委員会スケジュール（案）

【事務局】

定刻になりましたので、第19回ふじみ衛生組合安全衛生専門委員会を開会いたします。

本日は、まず最初に、調布市医師会推薦委員の横須賀委員辞任に伴い後任のS委員に委嘱状の交付をさせていただきます。

【委嘱状交付】

【事務局】

S委員、ご挨拶をよろしくお願いいたします。

【S委員】

肉声が大きいので、このまま行かせていただきます。

今期から調布市医師会で医療安全の担当も、今までは保険診療担当だったんですけども、併任することになりまして、前任の横須賀先生から引き続き委員をさせていただきます。全くわかりませんので、いろいろ勉強しながら、少しでもお役に立てればと思っております。よろしくお願いいたします。

【事務局】

それでは、第19回ふじみ衛生組合の専門委員会の、資料の確認をさせていただきます。それでは、資料1になります。ふじみ衛生組合安全衛生専門委員会の名簿から資料6、平成31年度ふじみ衛生組合安全衛生専門委員会のスケジュール（案）までが用意してございます。

あと、申しわけございませんが、事前に配付した資料3ですが、33ページ及び35ページに、数値の一部訂正がございましたので差し替えさせていただきました。

また、追加の資料があります。新たな水銀除去システム経過報告という資料及び次回日程協議用のカレンダーをお手元に用意してございます。

資料はおそろいでしょうか。資料の不足等、特にお声がないようですので、ここからは委員長に会議の進行をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

【委員長】

皆さん、こんばんは。ものすごく暑かった夏が過ぎて、何か忘れたように、涼しい秋になってきましたけど、皆さん元気だと思いますが、今日は通常の報告以外に水銀の話が少しあるようですので、皆さんとしっかり議論しながら、いい方向を見つけていきたいと思っております。ひとつよろしくお願いいたします。

それでは、次第に沿って進めていきたいと思っておりますので、まずは議事録の確認ですが、事務局から確認の資料が行っていると思っておりますので、その訂正をした上で、ここに出されていると思っております。特にその後の経過で修正が要るといったご意見ありませんでしょうか。ないようでしたら、これで確認されたということで、事務局に戻りたいと思っております。いいでしょうか。

それでは、次に2番目の議題ですが、平成30年度ごみ処理実績について、事務局から説明をお願いいたします。

## 【事務局】

それでは、平成30年度のクリーンプラザふじみにおけるごみ処理実績につきまして、ご報告いたします。誠に申しわけございませんが、本日、差しかえ資料としてお配りしております資料3の33ページをお願いいたします。右上に「資料3差替」と書かれている資料でございます。よろしくお願いいたします。

上のグラフをごらんください。平成30年度4月から9月までの可燃ごみの搬入実績でございます。上のグラフの右下に記載のとおり、三鷹市の可燃ごみの搬入量は1万4,424.87トンとなり、前年度比で75.03トン、約0.5%の減、調布市の可燃ごみの搬入量は1万7,133.02トンとなり、前年度比で7.58トン、約0.04%の減となりました。また、リサイクルセンターで発生した可燃性残渣のクリーンプラザふじみへの搬入量は3,659.48トンとなり、前年度比で146.81トン、約3.9%の減となりました。

次に、小金井市からの搬入量は1,499.13トンとなりました。なお、小金井市からの搬入は平成29年度4月分から開始され、年間3,500トンを上限として受け入れを行っています。

以上の結果、平成30年度4月から9月までの可燃ごみの搬入量は3万6,716.50トンとなり、前年度比で150.25トン、約0.4%の減となり、ほぼ前年度並みの搬入量となりました。なお、小金井市分の搬入量を除きますと、229.42トン、約0.6%の減となり、小金井市分を除く可燃ごみの搬入量におきましても、前年度比ではほぼ横ばいとなっています。

次に、下のグラフをごらんください。クリーンプラザふじみの搬出実績及び発電量・売電量についてご報告いたします。下のグラフの右下に記載のとおり、焼却灰の搬出量は3,127.31トンとなり、前年度比で7.67トンの減、飛灰の搬出量は1,133.78トンとなり、前年度比で75.16トンの増、鉄分の搬出量は111.13トンとなり、前年度比で6.28トンの増、焼却量は3万9,077.33トンとなり、前年度比で904.69トンの増となりました。

また、発電量は2万1,395.85メガワットアワーとなり、前年度比で990.98メガワットアワーの増、売電量は1万5,604メガワットアワーとなり、前年度比で612.46メガワットアワーの増となりました。なお、下のグラフにおきまして、焼却量並びに発電量及び売電量のグラフが下落しておりますところは、2炉あります焼却炉の法定点検により、2炉ないしは1炉を停止したことによるものでございます。

続きまして、34ページをお願いいたします。平成30年度4月から9月までのリサイクルセンターにおける不燃ごみ等のごみ処理実績につきまして、ご報告いたします。

一番上のグラフが三鷹市の不燃ごみ等の搬入実績でございますが、そのグラフの右下に記載のとおり、不燃ごみ等の搬入量は合計で4,544.91トンとなり、前年度比で21.35トン、約0.5%の減となりました。

真ん中のグラフが調布市の不燃ごみ等の搬入実績でございますが、そのグラフの右下に記載のとおり、不燃ごみ等の搬入量は合計で4,629.04トンとなり、前年度比で131.80トン、約2.9%の増となりました。

一番下のグラフが両市の不燃ごみ等の搬入量の合計でございますが、そのグラフの右下に記載のとおり、不燃ごみ等の搬入量は合計で9,173.95トンとなり、前年度比

で110.45トン、約1.2%の増となりました。

以上のとおり、平成30年度4月から9月までにおける両市の不燃ごみ等の搬入量の実績といたしましては、前年度比でほぼ横ばいとなっています。

個々の搬入量の実績のうち、主なものといたしましては、三鷹市の不燃ごみの搬入量が前年度比で53.99トン、約6.5%の減となりました。三鷹市の不燃ごみにつきましては、ここ数年緩やかな減少が続いています。また、ペットボトルの搬入量が前年度比で35.34トン、約9.5%の増となりましたが、この夏の気候が影響しているものと思われます。調布市におきましては、三鷹市同様、ペットボトルの搬入量が前年度比で25.21トン、約5.2%の増となりました。

続きまして、35ページをお願いいたします。平成30年度4月から9月までのリサイクルセンターにおける有償、無償の資源物搬出並びに逆有償の資源物及び熱回収搬出につきましてご報告いたします。上のグラフが有償、無償の資源物の搬出状況でございますが、上のグラフの右に記載のとおり、資源物の搬出量の合計は4,908.50トンとなり、前年度比で304.78トン、約6.6%の増となりました。右側から3つ目の容リ・プラスチックの搬出量が前年度比で239.76トン、約12.3%の増となりました。これは、この間の両市のプラスチックの搬入量の増加率が約2.1%の増であることを考慮しますと、リサイクルセンターにおける容器包装プラスチックの抽出が順調に行われた結果であると考えております。

次に、下のグラフをごらんください。逆有償の資源物及び熱回収搬出についてご報告いたします。下のグラフの右に記載のとおり、搬出量の合計は3,726.48トンとなり、前年度比で143.86トン、約3.7%の減となりました。

以上の結果、平成29年度4月から3月までの資源物等の総搬出量は、右下に記載のとおり、8,634.98トンとなり、前年度比で160.92トン、約1.9%の増となりました。

平成30年度4月から9月までのごみ処理実績の報告は、以上でございます。

#### 【委員長】

どうもありがとうございました。ただいまの実績報告につきまして、質問あるいはコメントがありましたらよろしくをお願いいたします。

4月から9月までの前期の実績ということで、昨年の前期の実績と比較してあまり変わらないということでもございましたね。それで、何かペットボトルがちょっと多いような感じだと。29年と比べてもちょっと多いと。やっぱり夏の暑かったせいじゃないかということのようですが。とはいいいながら、焼却施設への負荷はむしろ若干減っている状況だということでもございまして、運転上も大きな対応をしなきゃいけないという状況は発生していないということだろうと思いますね。

特にご意見ございませんか。じゃ、次に行きたいと思います。

続きまして、平成30年度環境測定結果について、事務局からご報告ください。

#### 【事務局】

それでは、以前に配付いたしました資料の36ページをおあけくださいますでしょうか。平成30年度の環境測定結果でございます。

今年度に入って初めてのご報告になります。

まず、上のほう、1号炉につきましては、5月から6月にかけて休炉してお

ります。2号炉につきましても、6月から7月にかけて休炉しておりまして、こちらは年次点検の作業を行ったものでございます。10月につきましては、1号炉が休炉しておりまして、点検等を行っているところでございます。

続きまして、2番目の欄に行かせていただきます。排ガス測定でございます。

まず、ばいじんにつきましては0.001 g/m<sup>3</sup>N未満というところでございました。いおう酸化物につきましては、6月の1号炉3.5ppmが最高値でございました。塩化水素につきましては、同じく6月の1号炉の1.8ppmが最高値でございました。窒素酸化物につきましては、8月の2号炉の41ppmが最高値でございました。鉛、カドミウム、亜鉛につきましては、0.04mg/m<sup>3</sup>N未満でございました。水銀につきましては、8月の1号炉の0.0048mg/m<sup>3</sup>Nが最高値でございました。一酸化炭素につきましては、7月の2号炉の20ppmが最高値でございました。ダイオキシン類につきましては、7月の1号炉の0.00000018ng-TEQ/m<sup>3</sup>Nが最高値でございました。

続きまして、騒音・振動・臭気・排水の測定でございます。まず、騒音の4月の測定値ですけれども、午前8時から午後8時まで、こちらが56dBの南でございます。それから、午前6時から午前8時まで、こちらが54dBの東でございます。それから、午後8時から午後11時、こちら54dBの南でございます。午後11時から午前6時までですが、こちらは49dBの南側でございます。振動の4月の測定値につきましては、午前8時から午後8時まで、38dB南、それから、午後8時から午前8時までが37dB南でございます。それから、臭気測定につきましては、4月と6月に測定しておりますけれども、10ppm未満というところでございました。排水につきましては、6月の測定でございますけれども、水質基準以下というところでございます。

放射能に関する測定でございます。焼却灰につきましては、5月、6月に12Bq/kgという数値が最高でございました。飛灰につきましては、5月の72Bq/kgという数値が最高でございました。排ガスにつきましては、不検出でございます。排水につきましても、同様に不検出でございました。それから、空間放射線量率の測定でございますけれども、こちらは、例えば4月につきましては、1メートルの大型バス駐車場で0.08μSv/h、同じく4月の大型バス駐車場の5センチのところでは0.09μSv/hという数値がございまして、こういった数値が最高の数値でございました。

以上の数値は、自主規制値や基準値も含めまして、それをクリアした数値でございます。また、昨年度のものとも比べてみましたが、そんなに大きく変わるものではございませんでした。また、今年度の三鷹市、調布市の空間放射線量率、比較をしてみましたところ、同様の傾向でございました。

続きまして7月の周辺大気の測定でございますけれども、38ページをおあけください。細かい数値は申し上げませんが夏の黄色いほう、こちらが稼働後の数値になっておりまして、稼働前と比較しているものでございますが、こちらにつきましても周辺大気ということですので、増えたり減ったりということが事実でございました。

それから、下の表につきましては、青と緑のほうなんですけれども、こちら29年度と30年度の比較でありますけれども、増えたり減ったりということで、一定の傾向にはないというところでございました。

以上でございます。

【委員長】

ただいまの説明についてのご意見あるいは質問がありましたらお願いします。

【事務局】

委員長、済みません。周辺大気のところですが、上段のほうの表1ですが、差し引き「②－①」の差異としていますが、出ている数値が、「①－②」の差異でございます。表題の。それぞれ逆転しております。式の入れ方が間違っております、申しわけございませんでした。

【委員長】

欄の表現の仕方が「②－①」じゃなくて「①－②」だということですね。わかりました。

それを踏まえた上で、ご質問あるいはご意見がありましたらお願いします。

あまり問題があるわけではないですが、騒音・振動の4月の測定というのは、例えば午前8時、午後8時で基準値が60dBだけれども、どうも敷地の南側で一番高く、56dBでしたという理解でいいんですかね。何点か測っているですよ、これ。

【事務局】

はい、そのとおりでございます。

【委員長】

マックスが56dBで、60dBに対して56dBになった。

【事務局】

そうでございます。

【委員長】

ということは、その下のほうの段で8時から11時というのは55dBに対して54dBというのは、少しぎりぎりまで来ている。こういう場合に、よく超えちゃうと、あの騒音は車の音ですよとかという話が必ず出てきますけど、その辺のバックグラウンドというか、あの騒音の影響は結構高いんでしょうか。こういう場所ですから。そうすると、超える可能性がありますね、これ。測ってみると。あの騒音も測らなければいけなくなりますよね。

【事務局】

若干補足、よろしいでしょうか。

【委員長】

どうぞ、お願いします。

【事務局】

54dBの南の件ですが、東八道路沿いで測定しております。ですから、一晩中、車が走って、その騒音ではないかなと考えております。

【委員長】

ほかにごありますか。

【P委員】

委員長、済みません、1点だけ確認です。今の騒音・振動のところの臭気指数と排水を6月に測られておりますけれども、このときは年次点検が当たっていて、そ

れぞれフル稼働していないときだと思います。年に2回とか4回なので、ちょっとずらして、全て稼働しているときに、月をずらして測るということは、そういうやり方はしないんですかね。そっちのほうが、どちらかというとなりな条件で測るので、それでも基準をちゃんと満たしていますというほうが結構説得力があるんじゃないかなと。毎月測るやつは仕方ないとしても、年に2回とか4回というやつは、年次点検を外した月で測るという工夫はないんでしょうか。

【委員長】

というご意見ですが、事務局でどう思いますか。

【事務局】

いろんな場合を想定して測っているということで、休炉のときも測りますし、例えば2月のときなどは、休炉でないときも測るということで、いろんな場合を想定して計測しているところでございます。

【委員長】

ちょっと説明しますと、いろんな場合だったら、全休止のときもという感じになるんですけど、そういうふうにはなっていないのがありますね。実は焼却施設は、とまったときが流れやすいんですね。空気を吸って燃していますから、それがとまってしまうと、臭気を吸えなくなっちゃうので、その分だけ周りに拡散する可能性が高まる。ですから、むしろ全休止のときに測ってもらったほうがいいんじゃないかという感じはありますね。通常こういう敷地境界で臭気を測るときは、平常稼働時という感じのはかり方をして、でも、周辺の皆さんを説得するためには、こういう非常に特殊な場合でも大丈夫ですよという情報があったほうがいいと思いますね。

【事務局】

6月は全炉休止しております。

【委員長】

6月ね、はい。一応全炉休止のときがあるということですね。それでも10ppm未満という。わかりました。

ほかにございますか。そうしましたら、次の議題に移っていいでしょうか。移りたいと思います。39ページからお願いします。

【事務局】

クリーンプラザふじみが開設以来5年間経過しておりまして、その間、飛灰、焼却灰、それから、空間放射線量率の測定をしておりますが、今回も表ではお示ししているんですが、グラフで一度示してほしいというお声が地元協議会で行われました。作成いたしました。

まず、39ページが飛灰と焼却灰のデータでございます。開設当初は、450ベクレルという飛灰の高い数値が出ておりましたけれども、ごらんとおり、年を追うごとに下がってきているのが現状でございます。今年の3月には飛灰であっても50ベクレル弱と非常に下がっている。ただし、27年5月、29年5月のように時折高い数値が出る場合がございますが、これは焼却ごみの回収あるいは持ち込みというところを考慮しまして、状態が安定していないものが持ち込まれている。同じ条件のもの

のが持ち込まれているわけではないので、たまたま何らかの事情、例えばどこかで集積していた落ち葉等が一気に入ってきたというようなことではないかなとは推測しておりますが、すみません、ここについては、あくまでも推測のレベルでございます。焼却灰については、ごらんとおり、当初から非常に低い数値が出ております。

次の40ページをごらんいただけますでしょうか。こちら空間放射線量率の測定でございます。測定は、地上の高さ5センチ及び1メートルでそれぞれ5回ずつ計測を行っております。原子力規制委員会のモニタリングデータを公表している高さが1メートルでございますので、今回グラフは1メートルで作成いたしました。測定場所はすぐ隣で41ページに略図を掲載しましたが、この5か所でやっております。茶色の線が5番、真ん中の大型バス駐車場付近でございます。黄色が2番の南側の東八道路沿いでございます。赤が3番、西側の道路沿いでございます。それから、青が東側、防災公園との境目の道路でございます。一番低い緑が北側の測定値で、それぞれ測定しております。

42ページをお開けいただけますでしょうか。42ページには、測定機器の写真と測定時のイメージを載せました。下側が測定器の写真でございます。形式には、アロカTCS-172Bという機器で、測定方法は、今、申し上げたとおりの高さでやっております。測定に際しては、電源を入れた後、機器の測定状況の安定を待つため、3分、これは三鷹市と共用の運用の仕方を行っておりますが、3分待ちまして、以下30秒ごとに5回計測して、その平均値を毎回の報告にさせていただいております。測定値は、下の機械のメーター部分に表示されます。

また、校正と称していますが、測定器の精度を確保するため、毎年1回専門業者に委託しまして、機器の校正を実施しております。これに要する期間がおおむね1か月程度かかりますので、この間の計測はお休みするわけにいかないなので、同じ型使用しております三鷹市の計測器を借りて測定いたします。蛇足ですが、三鷹市の測定器を校正しているときには、ふじみ衛生組合の測定器を貸し出しております。なお、雨天と晴天とでは、実際には測定値が違う可能性はありますが、精密機器のために、雨天時は計測せず、翌日以降に順延して測定しております。

参考資料で43ページから48ページまで、これについては、専門家の皆様ですから、既にご存じのとおりの内容かと思いますが、1週間後に地元協議会の開催を予定しております。地元協議会については、ごく一般的な市民の方に報告の内容を確認していただくために、このような、国で作成した資料を添付するので、これについては、この資料についてコメント、あるいはさらにアドバイス等をいただければ非常にありがたいと思います。

以上です。

#### 【委員長】

ありがとうございました。放射能の測定結果を時系列で表にしてみたということですね。それから、測定地点別にやはり時系列にして空間線量率を表してみた。それから、測定方法についての少し説明を入れてもらっている。あとは「放射線の基礎知識と健康影響」ということで、住民の皆さんが不安がられるときに、一つの科

学的な資料を提供するというところで、こういう資料を使ったらどうかと考えていらっしゃる。何かもっといい資料があれば、ご紹介くださいということですね。この説明に対しまして、ご意見、質問がありましたらよろしくお願いいたします。

どうぞ。

**【K委員】**

先ほどのご説明で、27年5月の内容はわかりましたんですが、ちょっと類似検証で、39ページの26年5月を見ますと、下がっていたのが急に上がって、あと自然に徐々に下がってきて、26年11月、ドカンと下がっているんですが、類似というか、現象的には何か感じられるものがありましたら、ご説明いただきたいと思います。

以上です。

**【委員長】**

どうぞ。

**【事務局】**

これは、先ほど申し上げたように、推測でしかありませんが、世田谷等でホットスポットというような話、以前あったと思うんですけども、そういうものに照射された落ち葉なり、側溝のごみなどが持ち込みごみ、あるいは回収ごみとして入れられたものが入ったという推測をしております。

あくまでもこれ、担当者レベルの推測で正式なものではございませんが、考えられるものとしては、先ほど申し上げたとおり、焼却ゴミは一定の場所から一定の状態で入ってくるものではなくて、調布市、三鷹市の全域から入ってくるごみのうち、たまたま若干数値の高いものが入ってきたのではないかなど、あくまでも推測のレベルですが、そういうふうに思っております。

以上です。

**【委員長】**

なかなかこうだと言えないでしょうね、これは。なかなか難しいんじゃないかと思えますね。

どうぞ。

**【K委員】**

特に問題はないと思いますが、推測すると、例えば小金井のごみだとか、武蔵野のごみだとかいうものが想定されないですか。あくまで均等的に平準化しているということなんでしょう。あるいは突発的に出たということだけでしょうかね。

以上です。

**【委員長】**

なかなか誰も断定的に言えないところでしょうね。

福島なんかで除染をやっている民家とかございますね。一応除染して、レベルが下がっても、ある一定時間がたつと、また上がってくるというのが、まだ除染していない山が裏山にあつて、そこからずっと雨で少しずつまた戻ってくるらしいんですね。それが、雨どい下の側溝みたいなところに粘土質のシルト層があったりすると、そこで吸着されて濃縮するらしいんですね。セシウムはプラスイオンを持っていますから、粘土みたいなマイナスの吸着を持っているところにくっついていくんです

ね。で、濃縮するらしいから、そこが濃縮して、高い濃度を出すということがあるらしくて、今でもちょっと困っているんですね。裏山をやっていないので、またずうっと戻ってくるんですね。ですから、シルト層というのは意外とホットスポットの高い濃度をつくっちゃうんですね。粘土層というのは。だから、福島なんかの幼稚園児とかを持っていらっしゃるお母さんは、局所的にそういうのがあるんじゃないのというので、やっぱり心配なので、空間線量率をちゃんと測っておいてくれという要望が出るんですね。

ほかにございますか。質問でも結構ですので。どうぞ。

【L委員】

30年の4月からのデータが、さっきご説明ありましたので、これも一緒に、次の説明会のときにはつけ加えていただいたほうがいいかなと思うんです。私、ちょっとやってみましたら、ますますこの傾向強いんですけども、焼却灰にいたっては、1年以上にわたってもうほとんど規定値になっているし、それから飛灰につきましても、1年とは言えないかもしれませんが、1年弱ずっと安定しているので、いろんなことはあるかもしれないけど、あんまり今後は心配しなくていいのかなと、そんなふうに考えております。

それで、先生さっきちょっと言われたように、飛灰と焼却灰でこれだけ違うというのは、セシウムのアルカリ金属のゆえんですか。そうすると、カリウムとかナトリウムなんかも、やっぱり同じように、飛灰とこれではもう成分が大分違うということですね。

【委員長】

飛びやすいんですね。セシウムの塩化物もそうですし。単に粒径の違いだけじゃなしに、飛んでいって、バグフィルターを通り抜けるということで、飛灰のほうに濃縮しているんです。

【L委員】

はい、わかりました。

【委員長】

ちなみに、先ほどの30年4月、5月のを入れると、ほぼこれ50ベクレルですか。それで、通常100ベクレルというのをクリアランスレベルと呼んでいるんですね。クリアランスレベルは、普通の、放射能に汚染されていると言わなくていいというレベルなんです。それで、放射能に汚染されたものを除染して有効利用しようと思ったら、必ず言われるのがクリアランスレベルを守ってくれと言われるんです。そういうレベルなんですね。ですから、そこまで十分下がってきているということですね。

ほかにございますか。そうしましたら、次に、住民の皆さんが心配されるときに、放射能というのは、こんなふうにリスクを考えたらいいですよという資料の、この63ページの表なんですけど、東京、ニューヨークの航空機は結構被ばく線量が高いな。それから、場所によってもバックグラウンド的に高い地域がある。インドのケララ州。そういうバックグラウンド、自然ですね。

何か先生方で、こんなのもなかなかわかりやすく、いい資料ですよというのが

あれば、またご紹介いただけると、事務局は助かると思いますけど、いかがでしょうか。そういうのがお気づきになったら、また事務局のほうに情報を提供していただくということで、次に行きたいと思います。

それでは、新たな水銀除去システムの経過報告。事務局のほうからよろしく願いいたします。

#### 【R委員】

委員長、すみません、事務局にかわりましてご説明させていただきます。

それでは、本日お配りいたしました当日追加資料をごらんください。新たな水銀除去システムについての経過報告でございます。まず、1点目でございます。新たな水銀除去システムにつきましては、実証実験を平成29年4月1日から平成30年3月31日まで1年間実施しました。その結果、結果が良好ということもございまして、(2)にございますとおり、本格導入を平成30年4月1日から開始したところでございます。

この本格導入に伴います予算でございますけれども、平成30年度ふじみ衛生組合歳出予算から年500万円を予算化いたしました。件名といたしましては、水銀制御システム運転業務委託ということでございまして、装置の購入ということではなく、装置の購入プラス維持管理を含めて、1年間で500万円という形で予算化したものでございます。なお、実際の契約金額は460万円程度となりました。この費用対効果の点でございますけれども、今までベースの活性炭の吹き込み量を4キロから2キロへ、今回減らしたことによる減額分で対応が可能ということで、費用としてはプラスマイナスゼロというところでございます。

続きまして、2の水銀計メモリー効果のお話でございます。まず、(1)でございます。前回の委員会でも取り上げられましたけれども、高濃度の水銀が流出した後、ろ過式集じん機前の水銀計の水銀濃度が低減しているにもかかわらず、煙突側の水銀計の水銀濃度がろ過式集じん機前の水銀計の水銀濃度よりも高い濃度で検出される状況から、水銀のメモリー効果の可能性があるということ、委員長からご指摘をいただいたところでございます。

その想定でございますけれども、分析計の内部、または分析計まで排ガスを導入する導管、またはろ過式集じん機以降の煙道や機器に水銀が付着いたしまして、その付着した水銀が水銀計に入り込むことで水銀が検出され続けるのではないかと想定したところでございます。

続きまして、そのメモリー効果の検証方法の案でございます。下に図がございますので、図も参考にさせていただきたいんですが、煙突側の水銀計と同じ排ガスを測定するために、途中で排ガスを分岐いたしまして、その先に可搬式の水銀計を設置いたします。そして、高濃度水銀が検出され、(1)と同じ状況が認められた場合には可搬式の水銀計を立ち上げて、既存の煙突側の水銀計と可搬式水銀計との濃度を比較することによりまして、メモリー効果があるか、ないかの検証が行えるのではないかと考えたところでございます。

続きまして、裏面でございます。一方、課題がございます。1点目は、可搬式の水銀計は湿式タイプの水銀計を想定しておりまして、水銀計立ち上げ時に薬液を装

置に入れる必要がございます。水銀濃度上昇という緊急時において、この作業が可能なかどうか、この辺にちょっと不安があります。2点目としましては、可搬式水銀計へのサンプリング導管内部に水銀が付着してしまいますと、これがまたメモリー効果と同じことになってしまいますので、サンプリング導管内部を常時エアページしておく必要があると考えているところでございます。

以上でございます。

【委員長】

ありがとうございました。これが前回も、大分時間がたちますけれども、何となく全体がよく見えないなということでもやもやしていたので、もう一回しっかり報告してもらいたいということで、してもらったんですが、大分はっきりしてきましたね。この説明について、ご質問、コメントありましたらお願いいたします。

どうぞ。

【L委員】

メモリー効果発生状況の想定、これ仮説ですね。(2)のやつね。それで、この図から、よくわからないんですけども、いわゆる前にある水銀計、管に完璧について水銀が剥がれて、やるとすると、前にあっても、後ろにあっても同じことが起こっているはずですよ。つまり水銀連続計で測るときにも当然導管があるわけですから、そこで付着した水銀が剥がれて測定される。煙突の手前にあっても、やっぱりそれと同じことが起こっているという仮定ですが、そうなると、距離みたいなものとか温度とかも、いろんなファクターがきくんだらうから、僕もよくわからないんですが、そういうことを考えても、やっぱり後のほうの完璧について水銀が剥がれやすいだらうと。だから、メモリー効果が起こると想定されるのでしょうか。

それともう一つ、これで結果的には何がわかったのでしょうか。ちょっと僕もよくわからないんです。

【R委員】

これは、まだ案でございます。

【L委員】

案、そうか。

【R委員】

それで確認したいということです。

【L委員】

だから、これは水銀事故が起こらないとわからないんですね。わかりました。そういう準備をしますよということですね。

【R委員】

メモリー効果の検証をこのような方法でしたいと思いますがということです。

【L委員】

わかりました。

【委員長】

この図を見るとわかるように、炉の入り口じゃないんですよ。出た後のバグフィルターの前で測っていて、前のほうのはずっと下がっているのに、後ろのほうは

下がらないというのだから、これはやっぱりメモリー効果というか、測定器が少し水銀に汚染されて、その影響がずっと続いているんじゃないかと考えてしまうんです。だから、測定原理とか排ガスを測定器に入れるルートとかが、前と後ろで全然違うのか、どこが違うんだというのははっきりしている。だから、測定機器のサンプルを持っていく導管の材質とか曲がり方とか、ドレーンのあり方とかというのは、入り口と出口で全く同じなんですか。だから、その違いをまずチェックすればいいんじゃないかという気がするんですよね。専門の人は、それ、言わないの。専門の機器屋さんには、どんなチェックがありますかと聞いてないのでしょうか。

【R委員】

確かにバグフィルター前の水銀の連続計と煙突のところの水銀計のタイプが違うことは聞いているんですけども、それが今回の影響とどのように関係するかまでは、専門家のほうでもなかなか把握できていないのが現状でございます。

【委員長】

その専門家というのは、プラントメーカーさんという意味。

【R委員】

そうです。プラントメーカーの開発者のお話でございます。

【委員長】

でも、測定機器は測定機器メーカーがまた別にあるからね。そこに聞くと、わかるんじゃないかという。

【R委員】

失礼しました。出口のほうの水銀計のメーカーには、プラントメーカーを通じてヒアリングをしましたがけれども、実験が難しいそうで、メモリー効果があるとも、無いとも水銀計のメーカーでもなかなか言えないそうです。ですので、何とも微妙な回答だったと聞いております。

【副委員長】

この図で煙突側の水銀計って、少し青い字になっているんですか、それからメモリー効果検証用煙突側の可搬式水銀計、赤い字になっているんですね。この点線で結んでいるところが、模式的ですけども、この点線で結んでいるところから水銀計までについては、メモリー効果のことを少し、あり、なしの評価ができるかもしれませんけれども、ろ過式集じん機から後、装置全体の中で、水銀が流れたときに、どこかある程度蓄積しているということに関しては差はないですよ。

【委員長】

そんなに誤差がない。

【副委員長】

いやいや、差はないですよ。だから、点線の部分についての差は評価できる部分でしょうけど、ほかについてはなかなか評価をしにくいんじゃないかという気がするんですけど、それは大丈夫ですか。

【委員長】

要するに煙突のブルーの水銀計というのが、非常に高濃度の水銀が通った後に下がらなくなっている。そうじゃないかということで、まっさらな可搬式水銀計を持

ってきて測ると、メモリーというのは、影響を受けてないので、低くなっていけば、これでわかるんじゃないかと。

【副委員長】

そのメモリーというのは、この点線の部分、導入管というんですか、導管というのかな、分析計まで。そこから分析計の内部も含めて、それがきれいなものにかわって測ることは可能ですよね。これ、位置がちょっとずれているように見えるけれども、同じような位置でサンプリングするとすれば。だけど、それ以外のろ過式集じん機から後、もし蓄積していれば、ちょっとそこは変わらないわけですよね。

【R委員】

ほんとうに排ガス中に含まれていけば、変わらないです。

【副委員長】

変わらないというか、状況としては変わらないかもしれない。そこに蓄積しているようなことがあれば出てくるような。

【委員長】

だから、可搬式を持っていっても、やっぱり下がらないということになると、ダクトとか集塵機とかバグフィルターに水銀が残っていて、じわじわ出てきているから下がらない、そういうことがありますよ。あり得ますよね。だから、ちょっと確認したいという。でも、なかなかそういう高濃度になるって、年に一度もないから、ちょっとねという感じですね。

【副委員長】

となると、点線の部分、青い煙突側の水銀計と書いてあるでしょう、ここの中の汚れが下がれば、そここのところにこれがおりてくるということですか。

【委員長】

この煙突側の水銀計の測定範囲が、1ミリグラムパーノルマル立米までなんですよね。上限が。それを10倍も50倍も超えるようなものが来たときに、この装置の測定器の中の容器がずっと汚れちゃったときに、ページアールでどれぐらいできれいになっていくか。

【副委員長】

なるほど、どこにあるときに、わかりました。

【委員長】

そこだろうということなんですね。

【副委員長】

それはわかりました。それは効果がありそうですね。通常の作動をしているときですよ。

【委員長】

逆に言うと、入り口側の測定器は、最初にガーッと濃度が高くなるのを検出するわけでしょう。高くなって、高くなって行って相当高いところまで検出して、活性炭をばんばん吹けと。フィードフォワード、吹き込んでしまう。だから、それが機能した上に下がってきたら、ちゃんと下がってきましたというのが、わりとピークが素直に出てくる。これだけの測定ができるやつが、前にはちゃんとあるじゃない

かという。後ろにも同じものを入れろよという話もまた一つあるよね。こんなに下がらないやつはもう使わないというのは一つあると思うんですけど、そうすると相当高いものになっちゃうということですかね。

【副委員長】

活性炭を投下、働いてもらった後ですね……。

【委員長】

今のところ、実はよく私、海外に行っているときに、出ましたとあって、メールでチャートをPDFファイルでがらがん送ってくるんですよ。そうすると、すごく厚いファイルが添付されたメールが来て、開くのが大変で、薄い字で入っていて、それが、いつまでたってもおりにこないというのがずうっと続くと、もう一回送れとか、もう一回メールが入ってくる。ずうっとすごいファイルがくっついたメールを送ってもらわなきゃいけないというのがあって、ちょっとどうかしてよという感じなんですよ。

それで、現場でこの測定器の管理されている方のご意見もあったんですけど。

【R委員】

はい。

【委員長】

ちょっと紹介してくれますか。

【エコサービスふじみ】

エコサービスふじみです。よろしくお願いします。

現場の作業員というか、運転のほうとしましては、いつ出るか、非常にわからない状態で、何年かに一回か、非常に高い濃度が出るという状態で、出たら、いきなり通常の作業を切りかえまして、マニュアルに沿った対応をしなくちゃいけないのと、当然その後の判断は組合様と協議しながら作業を続けるということで、なかなかそういう状態で薬品を使ったような作業を正確にこなせるかということ、今の状態では厳しい状態で、何かほかにもうちょっと簡易な方法がないかなというところを模索しているところでございます。

【委員長】

これは、何かいい方法が出てきそうということで期待しているものでしょうかね。何かありそうな感じ、手応え的には。

【S委員】

質問いいですか。

【委員長】

はい、どうぞ。

【S委員】

ちょっと素人だから、わからない。煙突の先だから、難しいのかもしれないですけど、そのときにサンプリングをとるというのはできるんですか。不可能なんですか。排ガスのサンプリングをとるということ。要するに同時にそこで測定すれば、機器の中のアーチファクトなのか、実際に排ガスの中に入っているのかというのが、もしできれば、わかるはずなんですけど。

【委員長】

簡易式の簡易測定装置を持ってください。

【S委員】

そうです。両方同時に測れば、それで差が出なければ、機器のアーチファクトだし、排ガス中には出てないという証明にはなると思うんだけど。

【委員長】

簡易式を持ち込んで、何かいろいろ測定のための操作をする対応がいろいろあるらしいんですね。その作業がちょっと大変なので、停止するかどうかという緊張しているときにそういうことができるかと。

【エコサービスふじみ】

事前に出るよとわかっていたら、準備できるんですが、いつ出るかわからない状態で、出たら、作業の段取りを急遽、出た場合のマニュアルに沿ったのに切りかえしながら、その後の停止しなければいけないということも、組合様といろいろ協議しながらという合間で、なかなか別のことまで正確に、多分、薬剤を入れるので、そこまでをこなすのはなかなか難しいかなというところがございます。

【委員長】

簡易測定計って高いんですか。

【R委員】

300万円程度です。

【委員長】

それは、出たときにリースか何かでぱっと借りてくるの。

【R委員】

この方法を採用するなら購入するしかないと思います。

【委員長】

購入して置いておくと。スタンバイしておいて、出たら、ぱっと持っていけばいいというふうにするわけ。

【R委員】

そうです。

【委員長】

300万ぐらい、買っちゃおうかって感じね。でも、そういう簡易測定装置を使って、水銀の出ていた後の濃度が下がるところを並行して測らなきゃいけないから、それで確認しようということで、測定の負担はありますね。そういう作業を有料でお願いしなきゃいけないからね、きっと。やろうとすると。そういうことのようなんですね。

【L委員】

ちょっとよろしいですか。

【委員長】

はい、どうぞ。

【L委員】

委員長、メモリー効果ということの定義なんですけど、先生がお考えになってい

るのは、機器に入るときの管壁だとか、その周辺機器が汚れて、落ちないと考えておられるのか、機器そのものの検出管が、何か記憶効果みたいなのがあって、一定の値を示すと、高濃度ですね、そうすると、次はもうゼロ点がずれたようなことになるのか、どっちを。

【委員長】

測定原理にちょっと詳しくないので、わからないんですが、紫外線を使っているやつね。ですから、水銀の伝播が飛んでいて、紫外線が当たると濃度がちゃんと出るようになっていると思うんですね。だから、水銀の濃度がいつまでも高いということは、導入してきている管と、それから、中に入れて気化させて蒸気を測るような部分の線みたいところが水銀で汚れてしまうと、ずっと多分高い濃度になるんじゃないか。そういうイメージなんです、私は。どうですか、岩澤先生。だから、そういうときは、普通はもう取り出して、一旦洗浄してとか、それでまた入れ直すとかという感じにしないと、多分下がらないんじゃないかという感じがするんですけど。

【L委員】

ちょっとこれ、気になるんですけど、なかなか下がらないわけですね。それで、ずっと下がらないわけですね。それで、ゆっくり下がっていくんですよ。ゆっくり下がってくる。それ、どれぐらいの時間がかかるんですか。

【委員長】

それは相当時間がかかるから、リスクからいけば安全側、再開するなという感じになってですね。再開しちゃいけないという信号がずっと出ているようなもので。でも、実際、くっ入り口のだけで下がっているんです、もう。だから、それが、要するにバグフィルターとか煙道にくっついて、実際水銀がある状態だったら、もうそれでいいんですけど、この数値を守って、ゆっくり下がってきて、ちゃんと下がるまで待って再開しようという。今はそういうふうに言っていますから、ある意味、安全側の対応をしているんですね。でも、入り口はがんがん下がっているのに、これははるかに高い濃度が出続けるんですよ、こっちはね。それは単なるバグフィルター以後の煙道なのかな、汚れなのかなというね。だから、一度機器を点検したり、特性を聞いてみたりして検討してみてくださいということだったんですけど、なかなか難しいという回答なんですね。

【L委員】

専門メーカーならできそうだな。何台もお持ちなんでしょう。一旦汚した機械をまた測るとか、できそうに思うんですよ。

【委員長】

やっぱり測定レンジのマックスが1ミリグラムパーノルマル立米ですよ。そこに50とか100が入っていると思ったほうがいいですよ。じゃ、ちょっと別の方法を模索しましょうよ。何かいい方法がないか。とにかく入り口側で、今、入れたものがそれなりに機能するであろうということで、これから、不幸にして、また起きたときでも、これが有効に働くと、事前にといいか、軽い影響で済まされるような状況になる。

大体状況がつかめましたし、問題の所在がどこにあるかもわかってきましたので、さらに何かいい方法を検討して模索するというので、次に行きたいと思います。いいでしょうか。ありがとうございました。

次の議題は、協議事項についてでいいんですか。もう次に行っていいですか。皆さんのご協力のおかげで、今日は大分スムーズに進んでいますので、平成31年度ふじみ衛生組合安全衛生専門委員会のスケジュール（案）について、お願いいたします。

#### 【事務局】

資料の49ページをおあけいただけますでしょうか。専門委員会につきましては、年2回あるいは3回ということでやっております。来年度、下の欄外をごらんいただきたいんですが、この委員会の任期が31年6月12日でございます。実際には、6月だと平成31年という言い方はできなくなっていると思いますけれども、とりあえず、今、新しい元号はわからないので、この表上は平成31年あるいは32年の括弧内表示をさせていただきました。4月に今年度のデータの報告をして、6月は4、5月のデータ報告と、あわせて新たに委嘱をさせていただきたいと考えております。今回第19回の委員会を10月にやっておりますが、次年度は11月の予定としております。これは、地元協議会委員の任期が11月3日で満了するため、地元協議会を11月前半に開催を想定しており、地元協議会の代表の委員の方の入れかえがある可能性がございますので、タイミングを合わせて11月に第22回を開催させていただきたいと考えております。

以上です。

#### 【委員長】

ただいま安全衛生専門委員会の2019年、平成と言わないかもしれませんが、4月以降の予定が説明されましたが、何かご質問があれば、よろしくお願いいたします。特にスケジュール的には、こういうことでご了解いただいてということでもいいでしょうか。特に質問がなければ、また次に行きたいと思いますが。

三鷹市、このふじみ衛生組合、余熱利用のやり方として、非常に先進的な動きをしているわけですが、環境省のほうも、今、施設整備、全国で自治体が建てるごみ処理施設については、余熱をしっかりと有効に使いましょうということと、そういう活動を通じて、周辺に新しい価値を生み出すような機能をいろいろと模索してみようと。実は地方で、やはり地方の活力がなくなっているということで、いろんな意味で地方を元気にするような活躍の場にも、この清掃工場とか清掃事業をうまく使ってできないだろうかとか、熱を出すとか、電気をつくれるとか、資源が回収できるとかということを通して、単に清掃して衛生的にするだけじゃなくて、何か価値を生み出すような部分を、清掃工場って持っているよねというので、地域の皆さんとうまく協力し合いながら、清掃工場の持っている多面的な価値をもっとつくり上げていこうというような活動を支援しますよということを言っているんですね。

その中の一つに、災害時なんかの防災拠点、あるいはエネルギー拠点といった役割を持たせようかということで、そういう計画があると、環境省のほうも交付金等で支援するというような制度もできてきておりますので、そういう意味で、そこへも一歩早く、三鷹の場合は中央防災公園・元気創造プラザをおつくりになって、こ

このふじみの電気、熱をうまくそっちに持っていくということ。何となく対外的にはお隣の武蔵野市が有名なんですけれども、三鷹のふじみだって随分やっていますよというのは、荻原さんが言わないからかもしれないけど、意外とあまり広がっていないんですよね。私どもはよく一緒に研究会をやっていますから知っていますけれども。そういう意味で、ぜひどういうものが、どんなふうにつくられたのかというのを、私、一度見たいと思っているんですね。それで、見学可能かということと、いつでもできるのか、どういう条件だと見学できるのか、もしも皆さんも一緒にということであれば、一緒に行くようなことも計画できるのかといったことを事務局にお聞きしたいんですが。

**【事務局】**

見学は三鷹市の所管課に確認したところ、事前の日程調整は必要ですけれども、大丈夫だそうです。ただ、日中になるかなとは思っています。

**【委員長】**

できるそうですので、ぜひ、大地震が来て、ほんとうにこれで避難所になるのかとかとっていただいてもいいし、エネルギー、そのときにちゃんと発電を続けられるのというのがありますよね。電気や熱がちゃんと自立して送れるような場所だったら、避難所としてもものすごくすばらしいものになると思うんですけど。だから、そういうのを現場に見に行きたい。皆さん、どうですか。ご興味というか。もしもこの日に行きましょう、みんなでというふうにしたら。副委員長。

**【副委員長】**

いいと思います。

**【委員長】**

皆さんも興味があるということで。じゃ、なるべく皆さんに日にちが合うような形で何か設定して、一応見学会をつくってみる。そういうふうにしましょうか。事務局、いいですか。

**【事務局】**

この委員会メンバーでということであれば、年度内ということになるかと思いますが、例えば、何月の中旬、下旬ぐらいのイメージで、ご指定いただくと私どもも交渉しやすいので、非常にありがたいんですが。

**【委員長】**

これは早目に、いつごろ行くぞと言わなきゃいけないんですね。

**【事務局】**

いえ、そういうわけでもないように聞いております。

**【委員長】**

そうですか。なるべくウイークデーがいいんですか。土日はだめとか。土日はないのかな。

**【R委員】**

説明する職員が、もしかするといないかもしれないです。

**【委員長】**

なかなかないな。じゃ、ぱっと、今、言えるのが11月9日、金曜日。言っておい

て、この日はだめになりましたなんて怒られちゃうかな。

【副委員長】

すみません、ここはちょっとだめです。

【委員長】

だめですか。じゃ、11月13、14日あたりはどうでしょう。これは、半日ぐらいですかね。昼から行って、夕方解散という感じかな。2時間もあれば十分。お昼から出ても、3時から入って5時までぐらい。皆さん、13日、14日はどうでしょうか。

【副委員長】

私は要調整ですけど。

【委員長】

あとの皆さんは、13日、14日の3時から5時あたりはいかがでしょうか。

【S委員】

平日の昼は無理ですね。

【J委員】

開業医は無理ですよ。

【S委員】

無理です。絶対に無理ですね。せいぜい1時から2時とかなら行けるかもしれないけど。

【Q委員】

ちょっとその前に、すみません、以前にこういうことをお話ししたときに、何がいつまでもつかとか、水道がどうだとか、薬品。そのときに、お持ちの薬品の在庫が意外と厳しいかもしれないという話がありましたね。だから、そのときに、トータルでほんとうに発電がつけられるか、設備が動かないといけないわけですから、その辺も一緒に話していただくと、ほんとうに避難設備として有効なのかどうかという判断が、住民にもよくわかる気がいたします。

【委員長】

そうなんですよね。なかなか一旦地震でとまってから再立ち上げするときに、周りがブラックアウトしていたらなかなか厳しいですね。そういう意味では、この今日の資料を説明してもらっていいですか。

【R委員】

それでは、本日席上に配付いたしましたパワーポイントの資料と三鷹中央防災公園・元気創造プラザのパフレットの2つございますけれども、そのうちのパワーポイントの資料を使いまして、本日は説明させていただきたいと思います。

まず、先ほど委員長からお話ございましたとおり、この6月19日に閣議決定された廃棄物処理施設整備計画において、廃棄物処理施設整備及び運営の実施に関し8項目が定められました。この8項目の中に、委員長がおっしゃったとおり、地域に新たな価値を創出する廃棄物処理施設の整備が掲げられております。その具体的メニューの一つに、災害時の防災拠点としての活用が例示されています。そういった点で、今回の三鷹中央防災公園・元気創造プラザへのエネルギー供給の取り組みが、全国でも先駆けの取り組みとして注目を集めているところでございます。

それでは、まず、パワーポイントの1コマ目をごらんください。クリーンプラザふじみからエネルギーを供給している三鷹中央防災公園・元気創造プラザについてでございます。この三鷹中央防災公園・元気創造プラザは、総合防災センター機能を有しておりまして、災害時は元気創造プラザの中に災害対策本部を設置いたします。また、アリーナは支援物資のストックヤードになるなど、施設全体が災害対策の拠点となる施設でございます。このような施設でございますので、停電してしまつては困るわけございまして、クリーンプラザふじみから電力の供給を受けることで、停電を回避しようというものでございます。

次に、2コマ目をごらんください。廃棄物エネルギーの利活用の状況でございます。全体配置図にもありますように、クリーンプラザふじみから電力と温水を供給しております。当初は、桃色に塗り分けられました三鷹市役所等への供給を検討していましたが、三鷹市役所等は建設後、既に50年以上が経過しておりまして、建てかえの時期が近いことから見送りをいたしたところでございます。

次に、1枚めくりまして、3コマ目をごらんください。三鷹中央防災公園・元気創造プラザの施設配置図でございます。元気創造プラザと3つの広場がございまして、日本無線中央広場の下にSUBARU総合スポーツセンターがございまして、この日本無線とSUBARUというのは、ネーミングライツによるものでございます。

次に、4コマ目をごらんください。東広場には災害用のマンホールトイレ、かまどベンチ、防災パーゴラ等がございまして、広場を中心としてオープンスペース全体で7,500人の受け入れを想定しているところでございます。

次に、5コマ目をごらんください。電力の供給についてでございます。電力は自営線供給でございまして、電力会社の電線は利用しておりません。一般的には、道路をまたいでの供給はできないとのことなのですが、今回は間に市道を挟むものの、同じ管理者のもとで管理するというので、電気事業法上は、ふじみ衛生組合の敷地と三鷹中央防災公園・元気創造プラザの敷地は一体であるとの解釈をいただいております。また、電気事業法上、1敷地1契約ということになっておりますので、三鷹中央防災公園・元気創造プラザは、電力会社からの電気供給は受けられません。したがって、クリーンプラザふじみが稼働を停止し発電していないときは、ふじみ衛生組合が三鷹中央防災公園・元気創造プラザ分も含め電力を購入いたしまして、三鷹中央防災公園・元気創造プラザへ供給しております。なお、災害時には三鷹中央防災公園・元気創造プラザ側に非常用発電機と3日分の燃料がございまして、その間にクリーンプラザふじみを再稼働させることで、停電を回避できると考えております。

次に、6コマ目でございます。温水の供給についてでございます。温水につきましては、今まで捨てていたタービンの排気熱を利用し、40度程度の温水を1時間当たり60トン供給しております。熱量に換算いたしますと、1時間当たり5ギガジュールになります。三鷹中央防災公園・元気創造プラザ側に熱交換器がございまして、温水熱のみをそこで利用いたしまして、温水そのものは循環させております。クリーンプラザふじみが稼働停止し、温水を供給できないときには、三鷹中央防災公園・元気創造プラザの蓄熱システム等によるバックアップをいたします。以上のよ

うに、災害時においても、防災拠点に電力と温水を送ることができるメリットは大きいと考えております。

さきの西日本豪雨におきましても、学校に避難をした人は、スマートフォンの充電もできず、お風呂に入ることもできず、非常に苦勞したという話を聞いております。一方、焼却施設に避難された方は、スマートフォンの充電もでき、お風呂に入ることもでき、非常に助かったという話を聞いています。地震や台風など、自然災害の脅威が高まる中で、これからの廃棄物処理施設には、災害時の防災拠点としての活用など地域に新たな価値を創出する施設としての役割がますます求められるのではないかと考えているところでございます。

以上でございます。

**【委員長】**

どうもありがとうございました。大変すばらしいものだと思いますけど、今の説明で質問がありましたら受けたいと思いますが、どうでしょうか。どうぞ。

**【K委員】**

ちょっと単純な質問で申しわけないんですが、発電については、ごみを燃やして発電するわけですね。災害時に、発電するためのごみが集まるかどうかというのは第一の疑問でございまして、ここに3日分とありますが、ほんとうはそれ以上のものが必要じゃないかと思うんですけど、その対策をぜひお考えいただけないかなという。

以上です。

**【R委員】**

ごみにつきましては、ごみピットというところに蓄えております。容量は1万立方メートルございますけれども、そのごみを通常は焼却しているということでございます。ただ、どうしても年に1回、先ほどもありましたとおり、法定点検を行わなければいけないときには、できるだけごみピットを空にいたしますので、そういったタイミングで災害が発生してしまいますと、もしかすると、ごみが途中で切れてしまうというようなことが想定できなくはないんですけども、一般的にはごみピットの中にかなりのごみがたまっていますので、通常1か月程度は十分運転するだけのごみはたまっているのではないかと考えているところでございます。

**【委員長】**

どうでしょうか、今の回答で。たまたまごみがなかったんですよとかといたら。

**【K委員】**

ごみピットにごみがない場合は、いよいよ問題になるケースがある。

**【委員長】**

大体収集車の道路が、家が倒れたりして、瓦れきとかで通れないとかというのはよくあるんですね。ですから、最初に災害対応で道路を確保するのが一番重要だと言われてはいますが、道路を確保するときに、国交省とか道路管理者を中心にやるから、何でもどけちゃうんですね。どけちゃうときにまざっちゃうんですね、生ごみとかが瓦れきと。そうすると、後での処理が大変になっちゃうというね。あれのやり方も一つ、廃棄物のわかる人が一緒になってやっているとお分違うというのが

あるんですね。

ということで、大変いい施設ができています。そういう話は聞いていたけど、どんなのができたのかとよく知らなかったの、もうたしか動いているよねということで、一度見学させてくださいよということで。ですから、うまく日程が合えば、皆さんと一緒にということで。どうしても時間がとれない方がいいと思いますので。

ということで、先ほどの13日、14日あたりは、S委員とか、あれですね、皆さんはちょっとだめということなんですけど、ほかの方は行けそうだとということで、13日か14日あたりに決めていいですか。じゃ、その辺をターゲットに事務局のほう準備して、皆さんに案内していただくとどうでしょうか。じゃ、その方向で企画したいと思います。時間的には3時から5時ぐらいで。もう暗くなりますかね。もうちょっと早いほうがいい。2時、4時とか。昼から出てという感じでしてもらおうとやりやすいんですね。ここまで来るのに2時間ぐらいかかっちゃうから。そうすると、2時か2時半ぐらいに集まって1時間半ぐらいという感じで行けば、どうでしょうか。

じゃ、11月の13日か14日、どっちでもいいですかね。じゃ、このあれですから、14日、水曜日にしましょうか。じゃ、ひとつよろしく願いいたします。集合場所とか、当日何時とかというのは、改めてまた事務局からご案内、皆さんにいただけるということでお願いしていいでしょうか。

**【事務局】**

改めてご案内をお届けするようにいたしますので、よろしく願いいたします。

**【委員長】**

それでは、最後になりますかね、次回日程案について諮りたいと思います。事務局のほうから案がございませうか。

**【事務局】**

先ほどの49ページの年間スケジュールをおあけいただき、皆様の机に簡単なカレンダーを用意いたしましたので、こちらをごらん願います。

年間スケジュールでは、今回は来年4月ですので、今年度のデータがまとまった後ということを考えますと、早くて4月22日、これ月曜日でございます。または翌日の23日、火曜日ぐらいであればありがたいなと思っておりますが、いかがでございませうか。

**【委員長】**

事務局のほうから、来年4月の22日、月曜日ですね、もしもこれがだめであれば、22日、火曜日あたりで開催したいということですが、いかがでしょうか、ご都合のほど。第1候補の22日、月曜日の7時からということでいいでしょうか。特に異論がないようですので、4月22日、月曜日、夜の7時からということで決めたいと思います。よろしく願いいたします。

**【事務局】**

ありがとうございます。

**【委員長】**

今日の議題は一応終わりましたが、特に委員の皆さんで発言したいことがありま

したらお願いいたします。全体、これで終わりたいと思いますので、最後にございますか。特にないようでしたら、これで終わりたいと思います。本日は、どうもありがとうございました。

— 了 —